

2008年9月入職

ひらもとまなみ
平本真奈美

自宅にいるよりも職場にいる方が落ち着く

施設のテラスで野菜を育てています

私は昔から、年配の方と一緒にいると安心感があって、今も自宅にいるよりも職場にいる方が落ち着きません。プライベートで嫌なことがあった時も、職場に来て利用者さまと会うとほっとします。だからこそ、利用者さまにも「ここに来て良かった」と思っただけのように、なるべく要望を汲み取るように心がけています。施設のテラスにプランターが並んでいるのですが、これも利用者さまからの「野菜を作りたい」という提案がきっかけでした。夏だとスイカ、冬だと苺や玉葱といったように、四季折々の野菜がプランターを彩っています。肥料や水をあげることを楽しみにしている利用者さまも多いので、今後もこの取り組みは続けたいと思っています。おやつの中には調理して一緒に食べているのですが、自分たちで作った野菜なので、美味しさもひとしおです。



小さな出来事も見逃してはならない



そんな私にとって、「仕事を辞めよう」とまで思い詰めてしまった出来事があります。ご病気で声が出せなくなった一人の利用者さまの気分を害してしまい、半年以上口を聞いていただけませんでした。理由が分からずずっと思い悩んでいたのですが、意を決してその方の元に行き、筆談で会話しました。その方が気分を害した理由は、ある日の送迎に原因がありました。私が「誰がどの車に乗るか」という配車を行ったのですが、その方が敬遠している方と同じ車に乗せてしまったのです。

以前、ご病気のことに関して傷つけるような言葉を言われたそうなのですが、私はそのことを知りませんでした。その方は「平本は分かってくれている」と思っていたようで、だからこそ把握していないことに対して落胆されたそうです。私がお詫びすると、紙に「分かった」と書いていただけました。許していただいたことに大きな安堵感を覚えたのか、事務所に戻ってから思わずスタッフの前で泣いてしまいました。それからその方とは笑って話せるようになり、何かあるとすぐに呼んでいただけるようになりました。自分の目が届かない範囲に関しては他のスタッフから情報を集めるなど、利用者さまの気持ちを理解することは常に怠ってはならないと、今でも私の中に教訓として残っています。

笑顔あふれる
施設といひです。
平本真奈美